

広徳寺通信

LETTER FROM KOUTOKUJI TEMPLE

66

2016年 年末号



秋のお寺の様子！

▶ 秋彼岸会では民謡コンサート！

秋彼岸のお中日、9月22日(木・祝)にはお彼岸の法要が行われました。終わって、今年は葛西弘さんひきいる葛西三弦会による、民謡コンサートが行われました。目の前で民謡の歌声と演奏に圧倒、帰りには「よかったね～」と言う声がこここで聞かれ、大盛況に終わりました！

▶ ペット供養合同慰霊祭をしました

去年と同様、秋彼岸のお中日にペット供養塔「慈しみの丘」にて合同慰霊祭を行いました！合同慰霊祭に合わせて納骨なさった方もいました。自宅にあってなかなか納骨できない方も、こうした機会に納骨できれば、そういう思いも込めて行なっています。「慈しみの丘」に納骨されていない方もお参りできますよ。

▶ 成道会、最後のお寺参りでした！

11月18日(金)午後1時から、恒例の成道会(じょうどうえ)を行いました！成道会は、12月8日におさとりをひらいたお釈迦様に手を合わせるお参りです。今回も、たくさんの方々のお手伝い、並びにお参りをいただきました。今年最後のお参りも無事終わりました。

今年一年も、お寺参りに梅花講、婦人会とたくさんの方々にお寺に足をお運びいただきました。近年は、朝ヨガなどもやっておりますので、お寺に普段は縁のない若い方々が早朝にお寺に来て、焼香・礼拝をする姿も見られるようになりました。

冬のお寺の行事予定

▶ 梅花流詠讃歌

毎週**土曜日** 午後1時半～3時半
毎週の練習会の他に、講習会や検定会、大会に参加しています！

▶ 婦人会

毎週**火曜日** 午前9時半～11時半
お寺参りのお手伝いの他、毎週火曜日に手芸などのお楽しみ会を開催。成年会との懇親会(温泉)や忘年会もありますよ！

御詠歌はじめてみませんか??お寺詣りで聞いていて、「いいなあ」と思う方。それは、はじめのいいチャンスですよ！

▶ 写経

毎月**第2日曜日** 午後3時～4時
筆をもって心静かにシャンとする。
12月11日(日)・2月12日(日)
※1月はお休みです。

▶ 坐禅

毎月**第3日曜日** 午後4時～5時
リンと背筋を伸ばしてすわります。
12月18日(日)・2月19日(日)
※1月はお休みです。

tel 0138-73-2032

※日程が変更することがあります。事前にお問い合わせください。
※気軽に手ぶらでお越しください。

▶ お寺の庭より - お寺の日々をつれづれに

子どもと何かを暗唱したいというのが、かねがね私の夢でして、「平家物語」かな漢詩かな、と難しいことを考えていましたが、息子が4歳の誕生日になって、けっきょく始めたのが、『ダンマパダ』と一緒に覚えていくというものでした。『ダンマパダ』はお釈迦様の肉声に最も近いお経の一つ。詳しくは、この通信の裏面に書いてありますが、423句もあり、なかなかすべてを暗唱というわけにはいかないかもしれません。食卓のガラスの下に敷いて、トイレに貼って、夜一緒にお唱えして、息子は「なんで覚えるの?」といながらも、それでもしなやかな脳みそでギュンギュン吸収

しています。私も負けじと一緒に覚える毎日。彼が将来、お坊さんになろうとならなくても、人間が生きていく上での最上の言葉たちをしみこませた体と心は、どんな困難も切り抜けていけるだろうという願いが、私にはあります。「もろもろの法は意を先に、意を主に意より作られる～」。一度覚えた言葉はもう誰にも奪うことはできません。インターネットで調べれば、活字の並ぶ本をひもとけば、どんな知識や情報も得やすいこの今の世の中だからこそ、どんな時代も耐え抜いて来た言葉、生きていく指針となる言葉を暗唱することは大切だと考えます。

副住職 高橋 正英

仏事 Q&A - 仏教や仏事についてのご質問にお答えします。

Q お葬式で「い〜」とか「ろー！」と声を出すのは？

お葬式で、お坊さんが「い〜」と言ったり、「ろー！」と声を発したりしますが、これは俗に言う「引導を渡す」ということをしています。引導（いんどう）とは、亡くなられた人を仏の世界に導き、苦しみから救うこと。この引導を行うお坊さんを、「導師（どうし）」と呼んでいます。た

POINT

「い〜」「ろー！」とは、言葉では表すことのできない亡き人への思いを表しています。

いまつに火をともして棺に火をつけ（る作法のみをして）、故人の遺徳をたたえた最後の言葉をかけたのち、「い〜」とか「ろー！」と発します。これは、別れの最後に、言葉では表すことのできない亡き人への思いを表しているのです。

ミニミニ法話 - お檀家さんのおしゃべりで気づいたこと

生きていて、特別な日なんてないんですよ。

ちょっと冷淡に聞こえるかもしれませんが。生きていて、特別な日なんてないなんて。そんなことない！って思う方もいるでしょう。もちろん、人が生まれればめでたいし、人が亡くなれば悲しい。この今日一日があったために、人生が暗転もすれば、明転もします。そんな特別な一日って、皆さんにも経験あるのではないのでしょうか。だからこそ、誕生日を祝いもすれば、大切な人の命日に手を合わせる。今日が「ここぞという時！」という面接や受験のような時もありますよね。

そのお檀家さん、Yさんから「特別な日なんてないんだよ」という言葉をいただいたのは、月参りでのことでした。その日の前日まで名古屋まで出張していたというYさんは、帰宅したのも最終の新幹線でしたから、家に着いたのも夜中の12時近く。にもかかわらず、翌朝の命日の日にはきちんと用意されてお参りなさっていました。一度退職された身ですし、そうとうお疲れであったと思います。私が「お疲れでないですか？」と尋ねると、Yさんは「いいえ、大丈夫ですよ。特別な日なんてありませんから」と、さらっとそう答えました。

日日是好日

しかし、よく考えてみると、特別な日をもうけるということは、それ以外の他の日はただの変わらぬ毎日という生き方です。うがった見方をすれば、「毎日はどうでもいい日」。逆に、特別な日なんてない、という生き方は、「毎日が特別な日」という生き方です。

Yさんがそうおしゃべるのを聞いて、思い出したのは永平寺での修行でした。永平寺での修行は、滝に打たれたり火を渡ったりする苦行ではありません。ご飯を食べること、掃除をすること、座ること立つこと歩くこと、そういう日常の一つ一つを、全身全霊をもって行なっていくことでした。

毎日が特別な日として生きるからこそ、本当に「特別な時に、いつものように堂々としていられるのだということ。Yさんの生き方は、忍耐が必要なたいへんなことではありますが、やってできないことはない、いや実際、私たちの先輩たちはそうやってきたんだということをお教えられるものでありました。「日日是好日（にちにちこれこうじつ）」という禅語は、まさにこなような生き方だと気づかされました。

コトノハ ヒロバ - 力をわけてもらえる言葉をあなたに

kotonoha hiroba

入門編

『原訳「法句経」一日一悟』

アルボムッレ
スマナサーラ / 著
校正出版社 2005年
1,188円



すべての句を知りたい方は

『ブッダの真理のことは・
感興のことは』

中村元 / 訳
岩波文庫 1978年
1,091円



キリスト教であれば『聖書』、イスラム教であれば『コーラン』というように、「この一冊が教えのすべてです！」と叫ぶのが仏教。それが深淵と受けとられるか、わかりにくいと感じるか、人さまざまだと思います。実のところ、お経がいくつあるかわれれば、学者でさえ頭をヒネってしまうほど。千や二千はあるそうです。その中でも、特に古いお経の一つが、今回ご紹介する『ダンマパダ』。日本では『法句経(ほっきぎょう)』として親しまれています。お釈迦様の肉声に近いお経とも言えます。しかし、お経と言っても、四三三句の短い言葉で、どれも私たちの悩み苦しみに寄り添うものばかり。今を生きる私たちに、お釈迦様が直に語りかけてくれているかのようで、おすすりめです。片山一良訳『ダンマパダ』(大蔵出版)より。

ダンマパダ ブッダのことは
この世の怨みは怨みをもって
静まることはありえない
怨みを捨ててこそ静まる
これは永遠の法である
(法句五)

Buddha